

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : エアコン洗淨プロ505

化学品の推奨用途 : フィン洗淨剤

整理番号 : SDS 74-04

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : コーイング株式会社

住所 : 名古屋市中川区伏屋1-807-1

電話番号 : 052-431-9070

FAX 番号 : 052-431-9071

作成年月日 : 2014年 6月10日 改訂年月日 : 2025年 2月 27日

2. 危険有害性の要約

<GHS 分類>

物理化学的危険性

全ての項目において「区分に該当しない」もしくは「分類できない」である。

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分2 (呼吸器)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分2 (呼吸器)

環境に対する有害性

全ての項目において「区分に該当しない」もしくは「分類できない」である。

(注) 記載なきGHS分類区分 : 区分に該当しない/分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

呼吸器の障害のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手や顔をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念が有る場合：医師に連絡すること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診察／手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び含有量

成分名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法 No.
水酸化ナトリウム	1~4.9%	1310-73-2	(1)-410
水酸化カリウム	1~4.9%	1310-58-3	(1)-369
エチレンジアミン四酢酸 四ナトリウム	1~5%	64-02-8	(2)-1265
キレート剤	1~5%	非公開	非公開
界面活性剤	1%未満	非公開	非公開
殺菌剤	1%未満	非公開	非公開

4. 応急措置

吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめて呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などを速やかに脱ぐこと。直ちに付着・接触部を多量の水で十分に洗い流す。速やかに医師の手当てを受けること。医師の指示無く、油類その他の薬を薬傷部に塗ってはならない。洗浄を始めるの

- が遅れたり、不十分だと皮膚の障害を生ずる恐れがある。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な微温湯又は水で15分以上注意深く洗いながし、速やかに医師の手当てを受ける。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと重大な障害を生ずる恐れがある。すぐには痛みが無く視力に影響が無くても障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること。コンタクトレンズを着用している場合、固着していない限り取り除いて洗浄する。
- 飲み込んだ場合 : 口に含んだ場合は直ぐに口をすすぐこと。飲み込んだ場合は、水で口内を洗う（意識がある場合のみ）こと。意識がない場合は、口から何も与えてはならない。無理に吐かせず、速やかに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末消火薬剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 特有の危険有害性 : 不燃性ではあるが、加熱されると腐食性及び毒性のヒュームを発生するおそれがある。水分や水に接触すると、可燃性物質の発火に十分な熱を発生する。
- 特有の消火方法 : 消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- 消火を行う者の保護 : 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
- 封じ込め、浄化の方法及び機材 : 漏洩した液は、土砂等でその流れを止め、乾燥砂、土、おがくず、布きれ等に吸着させるか、または安全な場所に導いてできるだけ容器に回収する。
- 回収・中和 : 少量の場合は、多量の水で洗い流す。
大量の場合は、できるだけ空容器に回収する。そのあとは希硫酸または希塩酸で中和し、多量の水を用いて洗い流す。この場合PH6～8の範囲で洗い流し、濃厚な液が河川等に排出されないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- ・「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の設備対策を実施し、保護具を着用する。
 - ・「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体換気する。
 - ・みだりに粉じん、ミストが発生しないように取り扱う。
- 保管
- ・アルカリ性なので、酸性の製品とは同一場所に保管しない。
 - ・通気をよくし、ミストが滞留しないようにする。
 - ・温度によっては凝固するため、冬季には温度効果に注意する。
 - ・施錠して保管すること。
- 容器
- ・軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレス又はポリエチレン容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	:	設定されていない
許容濃度	:	「エアコン洗浄プロ505」としては設定されていないため、組成分である水酸化ナトリウムと水酸化カリウムの設定値を記載する。 <ul style="list-style-type: none">・日本産業衛生学会（2007年度版） 2mg/m³上限値（水酸化ナトリウム） 2mg/m³上限値（水酸化カリウム）・ACGIH（2007年度版） 2mg/m³上限値（水酸化ナトリウム）（TLV-STEL） 2mg/m³上限値（水酸化カリウム）（TLV-STEL）
設備対策	:	近くに手洗い、洗眼などの設備を設ける。取り扱い場所は換気を良くする。
保護具	:	保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
色	:	淡黄色透明
臭い	:	無臭
融点／凝固点	:	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	110°C
可燃性	:	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火点	:	データなし
分解温度	:	データなし
pH	:	13.0以上
動粘性率	:	データなし
溶解度	:	水に可溶
n-オクタノール／水分分配係数（log値）	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び／又は相対密度	:	1.14～1.24
相対ガス密度	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	空気中の炭酸ガスを吸収して炭酸ナトリウムを生成する。
化学的安定性	:	通常の手扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	:	アルカリ性なので、酸と反応し発熱する。 アルミニウム、錫、亜鉛等の金属を侵し水素を発生し、これが空気と混合して引火爆発することがある
避けるべき条件	:	水、湿った空気、混融危険物との接触
混載危険物質	:	酸、酸化剤、銅、亜鉛、アルミニウム及びこれらの合金
危険有害な分解生成物	:	データなし

1 1. 有害性情報

急性毒性	: 経口 データ不足のため分類できない。 経口摂取すると口、のど、胃などが腐食される。 【参考値】 水酸化ナトリウムとして経口 ウサギ LD50:6632mg/kg (計算値) 水酸化カリウムとして経口 ラットLD50 :5061mg/kg (計算値) 経皮 データ不足のため分類できない。 吸入:気体 GHSの定義における液体である。区分に該当しない。 吸入:蒸気 データ不足のため分類できない。 吸入:粉じん、ミスト データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: 水酸化ナトリウムが1%以上のため、区分1に該当。 水酸化ナトリウムはヒトの皮膚に対して0.5%以上で刺激、重度の腐食を引き起こすとの記述がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 水酸化ナトリウムが1%以上のため、区分1に該当。 眼に入ると結膜や角膜が腐食され、視力低下や失明することがある。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 水酸化ナトリウムが1%以上のため、区分2 (呼吸器) に該当。水酸化ナトリウムは、ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述がある。また、水酸化カリウムはヒトに対して不可逆な障害があり、ウサギの試験で腐食性の記載がある。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 水酸化カリウムが1%以上のため、区分2 (呼吸器) に該当。
誤えん有害性	: データ不足のため分類できない。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期 (急性)	: データ不足のため分類できない。 水酸化ナトリウム(毒性値 (魚類) =なし (甲殻類) (ネコゼミジンコ) LC50: 40.4mg/L/48h (藻類) =なし 出典:NITE
水生環境有害性 長期 (慢性)	: データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	: データ不足のため分類できない。
生体蓄積性	: データ不足のため分類できない。
土壌中の移動性	: データ不足のため分類できない。
オゾン層への有害性	: データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

- 廃棄物の処理方法
- ・水を加えて希薄な水溶液とし、酸 (希塩酸、希硫酸) で中和した後、多量の水で希釈して処理する。
 - ・都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

- ・廃アルカリは特別管理産業廃棄物に指定されており、収集・運搬・処分は定められた基準に従って処理をする。

汚染容器及び包装

- ・容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	:	1760
品名	:	CORROSIVE LIQUID, N. O. S.
国連分類	:	8
容器等級	:	II
海洋汚染物質	:	非該当

国内規制

海上規制情報	:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	:	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	:	毒劇法の規定に従う
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	:	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない
緊急時応急措置指針番号※	:	154

※ 北米緊急時応急措置指針に基づく。米国運輸省が中心となって発行した「2008 Emergency Response Guidebook (ERG 2008)」(一般社団法人日本化学工業協会によって和訳されている(発行元:日本規格協会)に掲載されている。

15. 適用法令

労働安全衛生法	:	名称等を表示すべき危険有害物(法第57条、施行令第18条別表第9)(水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム(令和8年4月以降)) 名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム(令和8年4月以降)) リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3)(水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム(令和8年4月以降)) 皮膚等障害化学物質等(規則 第594条の2 第1項)(水酸化ナトリウム、水酸化カリウム) 腐食性液体(労働安全衛生規則第326条)
化学物質排出把握管理促進法(P R T R法)	:	エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩 管理番号: 595
毒物及び劇物取締法	:	非該当
消防法	:	非該当
港則法	:	施行規則第12条 危険物告示 腐食性物質
航空法	:	施行規則第194条危険物告示別表第1 腐食性物質

船舶安全法 : 危規則第2、3条危険物 告示別表第1 腐食性物質
水質汚濁防止法 : 施行令第3条 水素イオン濃度等の項目

16. その他の情報

引用文献

- ・ 化学物質総合情報提供システム（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）
- ・ 原料のSDS
- ・ JIS Z 7252 : 2019
- ・ JIS Z 7253 : 2019
- ・ 日本産業衛生学会 “許容濃度の勧告”
- ・ 化学品法令集 化学工業日報社
- ・ 11892化学商品”化学工業日報社（1992）
- ・ SIDS（2002）

責任の限定

本記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用してください。ここに記載した GHS 分類区分の算出根拠は、現時点における日本公表データです。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。